
保健集録

第 7 2 集

2023年(令和5年)3月

横 浜 市 養 護 教 諭 研 究 会

横 浜 市 小 学 校 教 育 研 究 会 養 護 研 究 会

横 浜 市 立 中 学 校 教 育 研 究 会 養 護 教 諭 部 会

横 浜 市 高 等 学 校 教 育 研 究 会 養 護 教 諭 研 究 会

横 浜 市 特 別 支 援 学 校 教 育 研 究 会 養 護 教 諭 専 門 部 会

第72集 保健集録

1 あいさつ

- ・ 横浜市養護教諭研究会会長 蛭田 美咲……1

2 横浜市小学校教育研究会養護研究会

- ・ 保健経営の充実をめざして～養護教諭の職務を見つめなおす～
中 区……2
- ・ 生涯にわたって健康に生きようとする子どもの育成
～担任とともに作りあげていく保健教育～
戸塚区……8

3 横浜市中学校教育研究会養護教諭部会

- ・ 子どもの健康課題解決に向けた校内連携のあり方 旭 区……14
- ・ 保健室対応による気づきから保健教育の推進に向けて ～頭痛の訴えを通して～
港南区……20

4 横浜市高等学校教育研究会養護教諭研究会

- ・ 保健室業務の効率化を目指して ～保健室データ管理のシステム化～ ……26

5 横浜市特別支援学校教育研究会養護教諭専門部会

- ・ 特別な支援を必要とする子どもたちの歯・口の健康づくり
～歯科保健教育のスキルアップを目指して～ ……30

6 各種大会・研修報告

- ・ 第73回関東甲信越静学校保健大会 ……35
- ・ 令和4年度全国学校保健・安全研究大会 ……37
- ・ 令和4年度全国養護教諭連絡協議会 第28回研究協議会 ……39

あいさつ

横浜市養護教諭研究会 会長 蛭田 美咲

横浜市養護教諭研究会は、昭和57年（1982年）に発足し、今年で40年目になりました。横浜市立学校に勤務するすべての養護教諭と養護教諭であった管理職の皆さまをもって組織された研究会です。この会の目的は、子どもたちの心身の健康を護り、養護教諭の役割や職務の向上をめざすことにあります。そのために、各種研究会、学校保健会、組合というそれぞれの組織が行っている活動を情報共有し、市全体としての課題や進むべき方向性を確認し、連携を深めています。

令和4年度（2022年度）は、昨年度・一昨年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大による影響がありながらも、少しずつ会議や研修会を集合開催とし、研究を推進することができました。学校においても、これまでの教育活動の目的や方法などを改めて見直し、感染症流行前とは違う新しい形で、様々な教育活動が行われるようになってきました。私たち養護教諭は学校における感染症対策の要となり、ICT教育の推進や感染症の動向を見据えながらの学校運営など、子どもたちの心身の健康を護り育てる養護教諭の存在はますます重要になってきています。

さて、今回、研究のまとめとして、皆さまのご協力のもと、「保健集録72集」が完成し、お届けすることができていることを非常に嬉しく思います。この保健集録には、例年、小学校と中学校については各研究発表大会の発表内容を寄稿していただいています。小学校については、今年度の二次大会で発表されたものを、中学校については研究発表会で発表されたものを、高等学校と特別支援学校についても例年同様、一年間研究されたものを寄稿していただきました。

研究テーマを決め、研究の目的を達成するために方法を考え、それをまとめて記録に残していく作業には大変なご苦労があったことと思います。しかし、研究を積み重ねていくことこそが、次世代の養護教諭への貴重なバトンになることと思います。非常災害となってしまったこのような時ではありましたが、研究の歩みを止めることなく歩んできたあかしとしての価値があると思います。保健集録にまとめられた研究の成果が児童生徒の健康・安全や養護教諭の職務について考える手立ての一助になりましたら幸いです。

今後も、ひとり一人の思いをみんなで共有し、お互いに手を取り合い、横浜市の養護教諭として同じ歩調でベクトルを合わせて歩んでいきましょう。

最後になりましたが、「保健集録72集」作成にあたり、ご尽力いただいた編集委員の皆さま、ご執筆くださった方々、ご協力を賜りましたすべての皆さまにこの場をおかりして厚くお礼申し上げます。

保健経営の充実をめざして～養護教諭の職務を見つめなおす～

中区小学校養護研究会

Ⅰ テーマの設定理由

時代の変化とともに、子どもを取り巻く学校・家庭・地域の環境やメディア環境は大きく変化している。それに伴い子どもの健康課題も日々変化しており、養護教諭は保健教育や保健管理、保健室経営にとどまらず、いじめや児童虐待などの早期発見・早期対応や学校内・医療機関等とのコーディネーター、特別支援教育のコーディネーターなど多くの役割を求められるようになってきている。

一方では、多忙化解消のための働き方改革が推進され、業務改善の取組が進められている。

そんな中で中区の養護教諭は、「限られた時間の中で効率性を高めつつも、子どもたちに豊かな支援を行うためには、どのような工夫ができるだろう」という視点から、日頃保健室で直面している課題や業務の工夫点などを共有し、職務を見直しさらに良いものにしていくことで、私たちが行う保健室経営がより充実したものになることを期待して、この主題を設定した。

2 研究経過

研究 1 年目より教材を中心とした情報共有を行い、以下のような流れで進めてきた。

令和 4 年度は、研究開始から 4 年目にあたる。

途中、新型コロナウイルス感染症の流行に見舞われ、研究会の中止が余儀なくされた時期もあったが、Zoom などの Web 会議ツールを利用しながら研究を続けてきた。

3 研究方法及び内容

日頃、保健室経営を行う中で工夫していることや困っていることについて、区内でアンケート調査を実施した。アンケート結果を分析し、各校で使用している保健業務にかかわる資料等を研究会に持ち寄り、工夫している内容や使用方法について話し合った。

話合いの中で、定期健康診断の記録の工夫をすることで、効率よく健診結果を記録・集計できるのではないかという意見や、保健指導の動画を作製することで、忙しい時期であっても必要性を感じたとき、タイムリーに保健指導をすることができるようになるのではないかという意見があがった。

そこで、【健康診断の記録グループ】と【動画グループ】の 2 つのグループに分かれて研究を進めていくこととした。

【健康診断の記録グループ】

- (1) 各校で使用している定期健康診断時の資料や結果の記入票をグループ内で提案し、実際に 使用しながら改善をすすめた。
- (2) 入力した結果のデータについての活用方法を検討し、視力検査の結果集計にいかした。

【動画グループ】

- (1) iPad の Self Service からインストールしたアプリである iMovie や InShot、合成スタジオを組み合わせて、保健指導で活用できる動画を作成した。
- (2) 動画を1人1点作成して持ち寄り、作り方をマニュアルにまとめた。

【健康診断の記録グループ】

<健康診断結果一覧表>

※表は A3 用紙横向きで使用する。今回は説明上、表を切り取り拡大して表示。

番号	氏 名	性別	発育測定				麻 痺 症 候 群	結 核 検 査	既 往 症	保健調査		心電図	尿検査	受診結果	視 力		眼 科	受診結果	聴 力		耳鼻科	受診結果	治療科 科 会																	
			月 日		身長	体重	BMI	ローレル	内 科	整 形	月 日	色 覚	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力	視 力																		
			月	日																																				
1																																								
2																																								
3																																								
4																																								
5																																								
6																																								

健康診断の結果のまとめ方は各校で様々であったが、1枚の表でまとまっていると異常が見つけやすく、子どもの一人ひとりの全身の状態や子どもたち全体の傾向が把握しやすいことが

<視力の結果集計の操作手順>

- ① 校務システムの「保健・健康管理」→「健康診断一覧」を選択。
- ② 学年・組を選択し、検索。
- ③ 内容出力をクリックし、「ファイルを開く」を選択。
- ④ CSV の健康診断一覧から、視力検査の結果をコピーして、該当学年の集計シートに貼りつけていく。

この時に、性別もコピーして貼り付ける（プルダウンで選択もできる）。

- ⑤ データを入力すると、自動で結果が判定でき、判定別に色分けをして入力までされる。
- ⑥ 「勧告」、「受診」はクリックして入力。
- ⑦ 「受診の結果」はプルダウンで結果を選択。

項	定期健診受診者		性別	裸眼		矯正		結果	勧告	受診	受診の結果	
	組	氏名		右	左	右	左				右	左
1	1		男	A	A			A	☐	☐		
2	1		女	A	A			A	☐	☐		
3	1		男	D	C			D	☒	☒	近視	近視性乱視
4	1		男			A	B	B	☒	☐		
5	1		男	A	A			A	☐	☐		
6	1		男	C	C			C	☒	☒	混合性乱視	近視
7	1		女			D	D	D	☒	☒	遠視	近視
8	1		女	C	D			D	☒	☒	近視	近視
9	1		男	C	C			C	☒	☐		
10	1		女	D	C			D	☒	☐		

- ⑧ 下へスクロールしていくと、シートの下に学年の集計結果表があり、自動計算される。

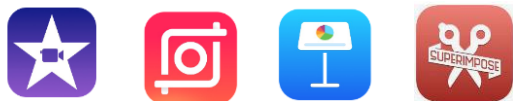
- ⑨ すべての学年を入力したら、左下の「学年合計」のシートに自動集計される。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
学年	性別	在籍児童数		B) 視力0.9~0.3		C) 視力0.2		D) 視力0.2以下		勧告者数	眼科医 受診者数	近視	近視性 乱視	遠視	遠視性 乱視	混合性 乱視	正視	
				裸眼	矯正	裸眼	矯正	裸眼	矯正									
1	男	46		0	1	0	2	0	2	5	5	2	4	0	0	0	0	
	女	34		0	3	0	0	0	0	3	2	2	0	2	0	0	0	
2	男	45		0	6	0	5	0	0	11	8	7						

動画を利用した保健指導

動画グループは健康診断の指導や保健指導を動画でできないか研究してきた。これまで パワーポイントをつかったり、紙芝居を 使ったりしていたが、1 人 1 台の端末が ある昨今、私たち養護教諭も ICT を活用してよりわかりやすい指導を目指していきたいと考えた。

作成に利用したアプリ



保健指導に使った動画は、iMovie や InShot、合成スタジオを組み合わせている。また、今回の発表動画はプレゼンテーションアプリの Keynote を使って作成した。使用したソフトは全て学校で使っている iPad に入っている。



動画を視聴した後、児童からは、「動画が音声中心でわかりやすい。」「知っていることでも、丁寧に説明してくれて大事なところは文字を大きくしてくれて伝わりやすかった。」などの感想が上がった。



教職員からは、「子どもたちが興味を持って視聴していた。」「文字での理解が難しい児童にも、視覚的に伝えることができた。」などの感想が上がった。

4 研究のまとめ

中区では、「限られた時間の中で効率性を高めつつも、子どもたちに豊かな支援を行うためには、どのような工夫ができるだろう」という視点に立って研究をスタートさせた。それは単に、作業の効率化を図ることだけが目的なのではなく、効率化によって確保できた時間を、子どもたちのために有意義に使うことが目的である。

区内でアンケートを実施し、各養護教諭が、模索しつつも様々な工夫を取り入れながら業務を行っている実態が明らかになった。2つのグループに分かれて研究を進めていく中で、他校での実践を自校でも取り入れてみようという意欲がわき、自校の実態に合わせた形で実践を試みることで、保健室経営の充実につなげることができた。

各グループにおける研究の成果(○)、課題(●)は、次の通りである。

【健康診断の記録グループ】

○記録方法を工夫することで、時間短縮につなげることができた。

○記録枚数を6枚から1枚に減らすことで、個人の全身の健康状態を横軸で確認することができた。また、枚数が減ったため記録簿の管理が簡単になった。

○視力の定期健康診断結果については、以前は手作業で集計を行っていたため時間がかかっていたが、エクセルで自動集計することで、作業時間を短縮させることができた。

●エクセルの活用などは ICT 支援員に助言をもらうことができたため、早く専門の方に相談すればよかった。また、今後は、視力の集計に限らず、他の健診の集計にも応用していきたい。

●例年通りの方法に満足せず、疑問や不便さを感じた時、問題をそのままにせず、立ち止まって見直し、検討・改善する努力を続けていきたい。

【動画グループ】

○保健指導に静止画だけでなく動きや音をつけることで、子どもたちの興味をひくことができた。

○短時間の動画だが、伝えたい内容を盛り込むことができた。

○作成した教材を、自校だけでなく、他校とも簡単に共有することができた。

○必要性を感じたとき、タイムリーに保健指導をすることができるようになった。

●画像など素材集めや、アプリの操作に慣れることに時間がかかった。そのため、余裕のある時期に作成したり、他校と共有したりすることで負担を減らしていきたい。

●子どもからの質問をその場で受け付けられなかったため、動画視聴後に質問を集める機会を作り、後日回答するなど工夫したい。

●発達段階に応じた指導が難しかったため、学年の発達段階に合わせた動画を作成し、理解できるよう配慮していきたい。動画の土台はあるため、少しの手間で作成できる。

今後も学校運営において養護教諭がかかわっていく職務は増えていくと思われる。限られた時間の中で、子どもたちのためにより多くの時間を割くことができるよう、事務作業等で効率化を図れる点については、積極的に図っていきたい。また、動画による保健指導については、作成したものを区内で有効に活用し、児童が抱える様々な健康課題の解決につなげていきたい。

「生涯にわたって健康に生きようとする子どもの育成 ～担任とともに作りあげていく保健教育～」

戸塚区小学校保健研究会

Ⅰ テーマ設定の理由

戸塚区保健研究会では、長い間担任と養護教諭が連携して行う健康教育の一部である保健教育をテーマに取り上げ研究を進めてきた。その中で、生涯にわたって健康に生きていくために子どもたちに身につけさせたい力(自分を大切に思う力・課題に気づき、考える力・学び合いを大切にする力・正しい知識を身につける力・主体的に解決しようとする力)を明確にし、公開授業研究会において担任と養護教諭がTT(チームティーチング)で授業を実施してきた。

過去の研究を振り返ると、毎年素晴らしい授業が提案されており、子どもたちに身につけさせたい力を伸ばすために有効な手立てが講じられていた。しかし、それを各校で授業実践に結び付けることが難しいと考える養護教諭が多かった。難しいと考える理由として、

- ① 子どもや学校を取り巻く環境の実態に違いがあること
- ② 養護教諭の経験値に違いがあること
- ③ 校内の協力体制に違いがあること

などが挙げられた。

そこで、より各校の実態に合わせた授業実践が行えるように、担任と養護教諭が共通のイメージをもって研究に取り組み、互いの視点を共有することが大切であると考えた。また、これまでの研究や日本学校保健会「学校保健の課題とその対応」を参考に、養護教諭が保健教育に参画・協力する意義について、次のように仮説を立てた。

「担任と連携して保健教育を行うことで、児童への共通理解が深まり、健康問題を解決するとともに保健室経営の充実につながる」

この仮説をもとに、養護教諭が保健教育に参画する意義を確認し、誰もが前向きに取り組みたくなる、担任と連携した保健教育の在り方について研究を進めることにした。

2 研究の経過

戸塚区保健研究会は、以前より養護教諭と教諭で構成された研究会である。この特徴を生かし、教諭と養護教諭で構成される保健教育グループと養護教諭のみで構成される保健室経営グループに分かれて研究を進めた。

令和2年度「生涯にわたって健康に生きようとする子どもの育成」

＜ 児童に身につけさせたい力 ＞

・自分を大切に思う力

- ・課題に気づき、考える力
- ・学び合いを大切にする力
- ・正しい知識を身につける力
- ・主体的に解決しようとする力

保健教育グループ

○実践提案・公開授業

「けがの防止」「手洗い指導」

○役割

養護教諭:感染症などの専門的な知識を提供する。

全校児童の実態を把握する。

担任:クラスの児童の実態を把握し、

指導後の学級経営に生かす。

☆両者が協力していくことによって児童の実態に即した実践に結び付けられる保健教育を目指した。

保健室経営グループ

○研究内容

保健教育グループの実践提案でもある「手洗い指導」と「けがの防止」に絞り、担任とともに行う保健教育のために、保健室からの効果的な情報発信について研究した。



【成果】

○養護教諭と担任の両者がかかわることで、異なる視点からのアプローチができ効果的な良い授業へとつながることがわかった。

【課題】

★養護教諭がすべての保健教育に TT でかかわるには限界がある。

★担任と協力して授業や資料提供していけると良い。そのためには、計画的にマネジメントしていく必要がある。



令和3年度「生涯にわたって健康に生きようとする子どもの育成

～担任とともに作り上げていく保健教育～

昨年度の課題である「計画的なマネジメント」を行うために、各学校において、担任から「養護教諭とともに授業したい単元」の希望をとった。担任の希望を聞き、養護教諭の専門性を必要とする単元に絞って研究を進めた。

保健教育グループ

○実践提案・公開授業

- ・手洗い
- ・睡眠(生活習慣)
- ・体の発育・発達

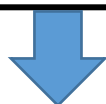


【成果】

- アンケートをとったことで、担任の希望にあった授業を取り扱うことができた。
- 各校で、担任とともに児童の実態にあった授業を行うことができ、分かりやすい授業展開を考えることができた。
- 養護教諭の専門性を発揮できる単元を取り扱うことで、充実した保健教育となった。
- 経験年数や学校環境が異なるため、研究会の中で様々な取組を提案、検討することにより、自校に合ったものを選択することができた。

【課題】

- ★担任、養護教諭が多忙なため、準備を効率的に行うために見通しを持った年間計画が年度初めに必要である。



令和4年度「生涯にわたって健康に生きようとする子どもの育成
～担任とともに作り上げていく保健教育～」

保健教育グループ

○研究内容

- ・担任、養護教諭が円滑に授業の準備を進めるために、年間指導計画を見直す。
- ・ICTを活用した授業準備の手立てを考える。

保健室経営グループ

- 養護教諭と担任を対象に行ったアンケート結果など、これまでの研究をまとめる。

3 研究内容

(1) 年間計画の立て方

各校の学年年間カリキュラムをもとに、担任に「年間カリキュラムの中、養護教諭と一緒に授業を行うと効果的だと思うものや資料提供を求めるもの」のアンケートをとり、養護教諭と担任が行える単元を一覧表にまとめた



養護教諭として、関われる科目や単元がたくさんあることがわかった。この一覧表も参考にして、各校で年間計画を立ててみよう！

A 校 自校の学校保健計画を活用

年度始めに、自校の学校保健計画を担任に配布し、授業を一緒に行うものと資料提供をしてほしいものに印をつけて、養護教諭に提出する。

- ・養護教諭が主体的に発信しやすい。
- ・学校保健計画を全職員に共有ができる。



養護教諭



担任

- ・春の忙しい時期に国語や算数などの教科以外に手が回らない。
そこで、学校保健計画があればどんな単元があるのか分かり、保健教育に対して前向きに準備をすることができる。

B 校 保健研究会が作成したアンケート結果を活用

年度始めに、保健研究会が作成したアンケート結果を担任に配布し、授業と一緒にを行うものと資料提供をしてほしいものに印をつけて、養護教諭に提出する。

・出来上がっている資料を活用するので、4月の忙しい時期でもすぐに使える。



養護教諭



担任

・養護教諭の専門的な知識や複数の目で見られるという利点から養護教諭と授業をしたいと思っていたが、何を願っていてよいのかわからなかった。表を見たことで、これならできそうと思えた。
・これまでお願いしていた保健教育以外の単元も入ってもらえることがわかった。

C 校 自校の学年カリキュラムを活用

年度始めに、自校の学年カリキュラムを担任に配布し、授業と一緒にを行うものと資料提供をしてほしいものに印をつけて、養護教諭に提出する。

・養護教諭も行事や教科、領域等と関連付けた年間の指導の見通しがつきやすい。
・養護教諭と担任が話をしやすい。



養護教諭



担任

・年度始めにカリキュラムを確認するため、年間で保健教育を意識して授業ができる。
・自校のカリキュラムのため、短時間で記入ができる。

★年間計画を立てるメリット★

- ①担任と養護教諭の打ち合わせの時間がとりやすくなる。
- ②授業の準備を計画的に進めることができる。
- ③養護教諭と協働できる単元がわかりやすいため、依頼がしやすい。



(2) 健康教育の実践から

ア 手洗い(区研究会で実践提案をした3校から) 第3学年

(ア) 活動名と題材名

けんこうな生活「体のせいけつ」
けんこうな生活「けんこう マイ・スターを集めよう」
けんこうな生活「体のせいけつ」

(イ) 実践を通して得られたもの

α 養護教諭

- ・ 授業に参

- ・ 低学年のうちに繰り返し指導することにより、日常の感染症予防になるだけでなく第3学年の「けんこうな生活」や第6学年の「病気の予防」の学習に繋がっていくことがわかった。
- ・ 研究会の中で研究をすることにより一つの学習計画から、朝学習や学校保健委員会、保健集会等、様々な場面での指導のつながりを意識することができた。(次ページ戸塚区の手洗いに関する取り組み一覧参照)

b 教諭

- ・ 授業前と授業後で手洗いに對する児童の意識が変わった。手を洗う回数が増え、丁寧に手洗いをする様子が見られた。
- ・ 授業の中で実験を用いたことにより「前回の実験で…」「養護教諭が…と言っていたよね」等、養護教諭が授業に入ったために得ることができた専門的な知識をもとに指導することができ、子どもたちの意識が大きく変わった。
- ・ 児童の保健教育に対する意欲が上がり「保健の授業が楽しみ」という声があがるようになった。

イ 生活習慣 第6学年

(ア) 活動名と題材名

「生活時間を上手にマネジメントしよう～睡眠編～」

学級活動(2)ーウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

「すいみんや生活習慣を見直そう」

(イ) 実践を通して得られたもの

a 養護教諭

- ・ 保健室から、全校に発信している、夏休みと冬休みの「生活リズム表」から、子どもたちの実態を分析する活動、長年続けているため経年的な変化を見取ることができ、授業に活用できた。
- ・ タブレットの活用やワークシートの活用により、意欲的に取り組む児童が多く見られた。また、個別の指導と集団への指導ができた。
- ・ 養護教諭が主体的にかかわっていくことで、学校保健委員会ともつながりを持たせることができた、全校の児童にも発信することができた。
- ・ 担任と連携することにより、児童を多角的にとらえ、健康相談につなげることができた。

b 教諭

- ・ 養護教諭が担任とともに、計画的に関わることによって、児童の健康に対する意識が変わり、学級全体で健康について関心を持てるようになった。
- ・ 中学受験を控えている児童が多く、すぐに生活を変えていくというのは難しかったが、自分の生活時間を見直すことによって中学以降の生活の仕方まで考えることができていた。
- ・ 睡眠と心の健康についても話を聞くことができたので、健康相談をしやすい下地ができた。授業は、10月から始まったが、その前から養護教諭とのかかわりを深めていったので、1年間取り組むことができた。
- ・ 課題は、打ち合わせの時間をもつことが難しかった。打ち合わせの中で、教えたこと、伝えたいことの内容が、養護教諭とずれることもあったので打ち合わせに時間をかけた。
- ・ 生活習慣は家庭の影響も大きいので、保護者を巻き込んで授業ができたならさらに良かった。

ウ 体の発育・発達 第4学年

ウ 体の発育・発達 第4学年

(ア) 活動名と題材名

「体の発育と健康」

- ①変化していく体
- ②思春期の体の変化① ～体の外にあらわれる変化～
- ③思春期の体の変化② ～体の中にあらわれる変化～
- ④よりよい発育のために

(イ) 実践を通して得たもの

a 養護教諭

- ・ 担任と共に授業を行うことで、子どもたちの実態に合わせた教材づくりをおこなうことができた。
- ・ 授業での反応を見ることによって、子どもたちがさらに知りたいことや、疑問が明確になり、今後の保健教育に生かすことのできるきっかけとなった。
- ・ 授業の中で保健室の役割を紹介することで、心身の悩みや不安を相談できる場や資料を見ることのできる場でもあることを子どもたちに知ってもらえた。

b 教諭

- ・ 養護教諭と一人ひとりの子どもの様子を共有できたため、授業の中で重きを置くところを検討することができた。
- ・ 心身の変化について知ることで、多くの子どもたちが自分自身の成長を肯定的に受け止めることができた。また、成長には個人差があることを知り、心身の変化に対して不安感を抱えている子ども達の安心感につなげることができた。

4 まとめ

市内でも数少ない教諭と養護教諭がともに学ぶ研究会という強みを生かして、研究を進めてきた。研究を通して、

- ① 担任と養護教諭が TT で授業を行うことで、より児童の実態に沿い、身につけさせたい力を育てるための手立てを取り入れた授業を考えることができた。
- ② 授業で多くの児童と関わることで、児童と養護教諭の関わりが増えた。
- ③ 担任との児童理解が進み、授業以外でも協働がしやすくなった。
- ④ 生きることに繋がる保健教育の時間を大切にしたいという思いは共通していることを確認することができた。このことは、保健教育を養護教諭のみで行うのではなく、学校全体で組織的に進めていくことに繋がる。

これらのことから、研究仮説の「担任と連携して保健教育を行うことで、児童への共通理解が深まり、健康問題を解決するとともに保健室経営の充実につながる。」を裏付けることができたと考える。

課題であった打ち合わせの時間の確保については、養護教諭が関わる授業の年間計画を立てて計画的に時間を確保することに取り組み始めている。効果的な打ち合わせの内容も含めて今後も検討を重ねていきたい。また、授業研究会や実践提案などで示された指導案や教材を区内で共有する仕組みづくりを模索している。このことにより、一から授業をつくるのではなく他校の良い実践を取り入れやすくなり、経験の浅い養護教諭も授業に参画しやすくなる環境を整えていきたい。養護教諭が保健室を空ける際の校内体制については、研究の成果を伝えることで校内の協力体制を整えていく必要がある。

これからも戸塚区で長年つくりあげてきた教諭と養護教諭の連携を大切にし、児童が生涯健康に生きていける力の育成を目指していきたい。

参考文献

「学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査結果から－」

公益財団法人 日本学校保健会©

子どもの健康課題解決に向けた校内連携のあり方

旭区中学校養護教諭研究会

はじめに

旭区中学校教育研究会養護教諭部会では、養護教諭が健康相談で捉えた生徒の健康課題や、生徒の傷病に対し、複数の職員で連携して行う緊急対応・支援に課題があることが各校から挙がった。そこで、生徒の健康課題解決のために、「校内連携」に目を向け、健康相談における情報共有のあり方や、緊急時の校内連携のあり方について、よりよい方法を探りたいと、このテーマを設定した。

研究内容

Ⅰ 健康相談における情報共有、校内連携

(1) 各校の情報共有についてのアンケート

旭区養護教諭の情報交換の中で、保健室で得た情報をどのような場で発信し教職員と共有しているのか、各校での情報共有の方法と課題について把握したいと意見が挙がり、アンケートを実施した。

ア アンケートからわかったこと

課題として、「早い段階で複数の職員と情報共有することが難しい」「保健室で得た情報を共有するための時間的な余裕がなく、伝え漏れや記憶違いなどのミスが起きる」ことがわかった。これまでも養護教諭が得た情報は直接関係職員に伝える努力はしてきたが、「素早く確実に伝えること」に課題が残ることがアンケートからわかった。

(2) 健康相談共有シートの活用

ア 活用の目的

保健室来室時に得た健康相談の内容を、職員に迅速かつ確実に共有し、伝達漏れを防ぐための情報発信・共有のツールとして作成した。限られた時間の中で円滑に情報共有を行えるように、養護教諭が発信すべき情報を精選し、記録としても蓄積できるシートとした。

イ 活用の流れ

- ① 支援が必要な生徒について、養護教諭が健康相談から得た情報をシートに記入し、個人情報の保護に配慮した上で、関係職員に渡す。
※記入情報が見えないように、裏面を下にし、机の上に置く。
- ② シートを確認した職員は、確認後サインをして養護教諭に戻す。
- ③ 養護教諭はこのシートを元に関係職員と直接情報共有をする。
- ④ シートは養護教諭が保管し、必要なときに取り出して確認をする。

イ シートを活用し校内支援を行った結果

シートの返却時に担任が、「放課後に話をしました」「生徒指導ファイル確認しました」などコメントを記入してくれたことで、その後の状況を把握することができた。また、生徒 A のリストカットはなくなり、保健室に来室する回数も減り、笑顔で学校生活を送ることが増えた。

(4) 事後アンケート

シートを活用した区内の教職員と養護教諭に、振り返りのためのアンケートを行った。短時間で情報共有することで、担任も生徒にかかわる心の準備ができた。また、情報共有の一助になったなどの振り返りがあがった。一方で管理の仕方が課題として挙がった。

(5) 考察

健康相談共有シート1枚に「緊急性の有無」「本人の気持ち」の欄を作るなど改善を重ねることで、関係職員と迅速に対応することができた。A 校では、担任が職員室に短時間しか戻れないときでもシートを確認することで、生徒の状態を担任が把握することができ、生徒が下校するまでに担任から声をかけることができた。この研究では、さまざまな業務の中で迅速に関係職員と情報共有していくために、紙媒体で知らせることがより効果的であると考えたが、養護教諭の振り返りとして挙げた紛失を防ぐ視点では、データでの情報共有も1つの方法ではある。どちらにしても、職員と養護教諭の間で、十分に情報共有の方法について共通理解をして、一定のルールの中で活用していくことが、情報管理の点では重要であると考ええる。

(6) まとめ

「健康相談共有シート」は、日々多忙な教職員と迅速かつ確実に情報が共有できるように改善を重ねた。このシートは、学校規模や実情に合わせて担任以外にもシートを渡すなど使用の仕方を変える工夫を行い実施した。シートを活用し確実に伝え続けることで、担任や学年職員から生徒情報の共有を求めて保健室へ来室する回数が増えるなど職員の意識も少しずつ変化してきた。シートを活用しながら、直接情報共有することを前提に日々のコミュニケーションを大切に、教職員と信頼関係を築いていくことが重要である。

今回の研究で、関係職員で情報共有をこまめに行うことは、生徒の健康相談の校内連携を迅速かつ確実に行うために大変重要であることが確認できた。今後も養護教諭から積極的に情報発信を行い、生徒が安心して学校生活を送れるよう支援していきたい。

2 緊急時の校内連携

(1) 緊急連絡体制の課題と解決に向けての働きかけ

緊急時における校内連携について、区内の共通課題を解決するために養護教諭の働きかけを整理し、具体的な方法を探った。

養護教諭の働きかけ

- ① 事故発生時からの全体の動きの明確化
- ② 事故や傷害の様々な状況に迅速に対応するための準備や、救急搬送の判断に関すること
- ③ 救急搬送時の物品の準備
- ④ 教職員の情報共有の仕方（記録を含む）

① ② ④に向けた働きかけ



ア 教職員研修

救急対応の意識を高め、
基本的な救急処置を身につける。

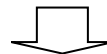
① ② ③に向けた働きかけ



イ 事故発生時の備え

その場にいた教職員誰もが
適切な対応ができるようにする。

① ④に向けた働きかけ



ウ 情報共有

事故発生時からの経過の記録
をとり管理職、教職員との情報共有を確実にする。

(2) 校内連携の課題解決に向けての取組の実際

ア 教職員研修に対する働きかけ

- ・保健安全指導部のメンバー一人ひとりの意識を高め、学校全体をリードしていけるように指導部内での研修を行う。
- ・緊急時の対応や知識を養護教諭が発信していく。
- ・研修の仕方の工夫
 - α 決められた時間内で効率的に研修ができるよう、少人数グループに分かれてローテーションで行う。(緊急時の連絡体制・AED の使用方法・エピペンの使用方法など)
 - β 研修後の教職員の意見や要望から再度研修を計画し、不十分な点を改めて確認した。
- ・技術向上のため、消防署の職員を講師として AED の使用や担架での搬送の研修をした。
- ・コロナ禍でもできる研修の工夫(コロナ禍でも意見交換ができるよう、Chromebook の Jamboard を活用し、事例検討を行った。)

教職員研修実践例と実践後の感想

【技術の確認】

◇担架の使い方

担架の固定金具がきちんと固定されないまま、不安定な状態で生徒が運ばれてくることがあり、使い方を確認しておきたかった。YouTube 日本赤十字社の動画がわかりやすかった。正しい使い方を初めて知った等の感想があった。

◇AED の使い方

設置場所の確認と実物(期限切れ)のパッドカートリッジを用いたことが教職員の関心を高めた。練習用のパッドと違い粘着力が強いことを知った。消防署に講師を依頼し技術の確認をした。少人数に分かれて講習を受けることで、全員が体験することができ、より効果的な研修になった。

【疾病管理】

◇アレルギー対応

文科省の動画の視聴とエピペントレーナーを使用して行い、エピペン所持をしている生徒の顔とエピペンの保管場所の写真を教職員で共有した。エピペンの使い方については、いざという時のために、年に1

イ 事故発生時の備えに対する働きかけ

- ・救急対応物品の常備

- 【救急対応セット・熱中症対応セット・救急バック・各フロアに簡易担架を設置】

- ・救急搬送、受診時のマニュアルの作成

- ・緊急時持ち出しセット作成

- ・緊急時マニュアルの作成と対応の準備

- 【心肺蘇生・熱中症・アレルギー・宿泊行事等】

- ・医療機関一覧の共有

- ・掲示物、表示の作成

ウ 情報共有に対する働きかけ

- ・記録用紙

- 【緊急時持ち出しメモ・報告用記録用紙・受診時の確認事項メモ・熱中症体調不良者記録用紙
受診結果のお知らせ】

(3) 考察

緊急時の迅速な対応には、教職員一人ひとりの意識の向上、基本的な知識や技術の習得と教職員の連携が必要とされる。そこで、養護教諭が行う働きかけとして、教職員研修、事故発生時の備え及び情報共有に視点を当てた。教職員研修については、指導部の運営に携わり、あらゆる緊急時を想定した研修内容や時間の確保の工夫をしていることがわかった。また、ICT 機器の活用により個人の意見を出したり、共有したりすることが容易になり、校内連携における教職員の不安や困り感などの把握ができ、学校の実態に応じた働きかけにつながることもわかった。緊急時に関する情報に関心をよせて、資料の収集や知識を深め、ICT 機器の活用についても積極的に学んでいくことが必要である。

事故発生時の備えについては、連絡を受けた教職員が対応できるように物品を準備した。また、受診時の付添いに必要な物と、保護者への連絡や学校への報告の内容をマニュアルにすることで教職員の誰もが行動できることを目指した。ただし、設置場所や使用方法について教職員に十分周知していることが必要である。

情報共有については、医療機関への正確な情報提供と受診時の経過記録の仕方について検討を重ね、必要最小限の個人情報の持ち出しと、受診結果の要点を押さえた記録用紙を作成した。そして保護者が医療機関に来られない場合にも、口頭だけでなく書面で確実に伝わるようにした。事故発生時からの経過の記録については、状況により記録担当者が引き継がれることもあるので、必要な項目に沿って記録することで一連の経過がわかる様式を準備しておくことが重要だと確認できた。

今回の研究を通して、緊急時の対応に備えて養護教諭が働きかけることで、教職員の関心が高まり、対応への不安が軽減することがわかった。一人ひとりが役割を理解して自信をもって行動できるようになると、緊急対応のためには教職員の協力や連携が欠かせないものであるという認識も深くなる。

迅速な対応には日頃の危機管理意識が大切であり、知識や技術を確認し、それらを向上させる教職員研修の機会を設けることも不可欠である。そのためには計画的で継続的な研修を進めていくことと、実際の対応を振り返り、改善すべきところを教職員で共有していくことを今後の課題としたい。

(4) まとめ

緊急時の校内連携のために養護教諭が行う働きかけについて、各校の実践を共有し、教職員研修、事故発生時の備え及び情報共有に視点を置いて研究を進めてきた。教職員研修についてはここ数年、コロナ禍により内容が制限され計画に苦慮していたが、この状況が機会となって、内容や方法を検討し、教職員研修の見直しや効果的な実践を考えることができた。事故発生時の備えや情報共有については、マニュアルを示したり、緊急時持ち出しセット等の準備をしたりすることで誰もが対応ができるようにした。これらの実践を踏まえ、各校の危機対応の見直しや新たな取組を行うことで、区全体としての危機管理意識の向上を図ることができた。今後は、教職員の危機管理意識の定着や関心をより深めることを目指して、教職員研修や研修の機会にとらわれずに日常での啓発が必要であると考え、実際の取組については十分な検討ができているとはいえないので引き続き検討していきたい。

養護教諭は日々の対応から、傷害や疾病に関する情報の集約や、個別対応の経験をもとにした分析、問題発見をすることができる。これらは養護教諭の専門性であり、危機管理や事故発生時に学校組織で対応していくために重要な役割であるといえる。教職員の誰もが知識や技術の習得を目指すことが理想的ではあるが、実際には、養護教諭の担う役割は大きい。養護教諭は、緊急時の校内連携体制における重要な一員であると同時に、その体制を深める働きかけができる立場にもある。今後も専門的な知識や情報を有効に活用し、新たな知識や技術について研鑽を重ねて、生徒の生命と安全を守っていきたい。

おわりに

私たち養護教諭は、生徒の心身の健康課題解決に向けた支援について、職員との連携の必要性は常に感じていた。しかしながら、多くの業務やさまざまな学校事情がある中で、円滑な校内連携に課題を感じるケースも少なからずある。この研究を通して作成した健康相談における情報共有シートや、緊急時の校内体制を整えるための取組は、校内連携のためのツールの一つとして成果があったといえる。また、校内連携の土台となるのは職員同士の日常のコミュニケーションであることも、あらためて実感することができた。

本研究では、学校の中での連携を中心に進めてきた。今後の課題としては、複雑化・多様化した心身の健康課題を抱える生徒を支援していくために、校内体制の更なる充実を図ると共に、家庭や関係機関との連携の強化に努めていきたい。

最後に、この研究にご協力いただいた各学校の教職員の方々、ご助言をいただいた先生方に感謝いたします。

保健室対応による気づきから保健教育の推進に向けて

～頭痛の訴えを通して～

港南区中学校養護教諭研究会

Ⅰ 主題設定の理由

保健室には日々、身体の不調から悩み相談など様々な訴えを持った生徒が来室する。中でも「頭痛」は来室理由のなかでもごく一般的なものである。しかし、一口で「頭痛」と言っても、原因は疾病や感染症から生じる内科的なもの、打撲などによる外科的なもの、さらには心の不調やストレスからおこる心因性のものと多岐にわたる。そのなかで、的確に原因や誘因を見極め、対応をするには、養護教諭の経験や日々の研鑽に基づくフィジカルアセスメント能力が求められる。生徒が訴える「頭痛」について、的確な対応を行い、そのうえで生徒の現状や気持ちに寄り添った支援と保健教育につなげたいと、このテーマを設定した。

2 研究目的

- 1 港南区内の中学生の頭痛の実態を知る。
- 2 保健室での頭痛への対応を検証し、よりよい応急処置や対応方法を考える。
- 3 頭痛について知識を深め、フィジカルアセスメント力を向上させる。
- 4 頭痛について学んだ知識や情報を活かし、保健教育につなげる。

3 研究内容（研究方法）

Ⅰ 港南区内の中学生の頭痛についての実態把握

調査対象：港南区中学校 10 校の 3 年生（1582 名）

回答率：全体 91.0% 1440 名/1582 名

調査方法：アンケート調査

調査時期：2018 年 11 月（2018 年 4 月～11 月について調査）

2018 年 11 月に港南区内の中学校 3 年生を対象に、頭痛についての実態調査を行った。

アンケートの結果から、多くの生徒が頭痛の誘発因子は考えられても、発症と予防が結びついていないことが分かった。自分の頭痛の誘発因子が何であるか気づき、どういうタイプの頭痛であるかを知ること、予防方法や対処方法を把握して、苦痛および不安や心配が軽減し、生活への支障を最低限に抑えることにつながるのではないかと。自分の頭痛の発生状態と発生時の生活や行動を振り返らせ、気づかせる支援が大切だと考える。

2 頭痛の問診票の作成と活用

（Ⅰ）問診票「頭痛の記録」の作成

① 保健室での頭痛への対応の充実

⇒フィジカルアセスメントの充実

② 生徒自身の頭痛への理解を深める

⇒自身の頭痛の誘発因子を理解し、発症予防につなげる保健

月 日 () 時 分 来室		頭痛の記録	
年 組 (男・女) 名前()			
1.	痛みははじめいつから?	今日 () 時頃から	・ その他 ()
2.	痛みのレベルはどれくらい? (軽いー 1 2 3 4 5 今までにない痛みー重い)		
3.	頭痛の起こり方は?	1 突然 2 だんだん 3 気が付いたら 4 その他 ()	
4.	どこが痛む?	1 全体 2 後頭部 3 おでこ 4 目のあたり 5 片側 (左・右) 6 両側 7 その他 ()	
5.	どんな痛み?	1 脈打つようにズキンズキン 2 しめつけられるみたいギューッ 3 重い感じにガンガン 4 瞬間的にキリッ、ズキッ 5 その他 ()	
6.	他の症状はある?	1 吐き気/吐いた 2 動くと痛みが増す 3 起きていられない 4 目がしょぼしょぼ 5 眩 6 鼻水 7 のどが痛い 8 じっとしてられない 9 肩こり 10 その他 ()	
7.	頭痛のまえに何か症状があった? (例: 目がチカチカ、クラクラした、など)	1 はい (症状⇒) 2 いいえ	
8.	昨日の睡眠の様子	寝た時間 (:) 起きた時間 (:) (1 よく眠れた 2 ふつう ・ 3 悪い 4 最悪)	
9.	今日の頭痛の原因は?	1 睡眠不足 2 疲れ (全身 ・ 目 ・ 頭 ・ 心) 3 ストレス 4 天候 5 頭を打った 6 その他 () 7 わからない	
10.	食事の様子⇒	(1 たくさん食べた 2 ふつう 3 少し 4 食べなかった)	
【処置・対応】			
・ 観察: 顔色 発汗 咽頭発赤 体温 ℃			
・ 問診: 内服 (:) 何を () 頻度 (月 年 週 回) 家族 (有・無)			
受診歴 (有・無)			
・ 処置: 体位 (座位 、 臥位)、アイシング、その他			
教室に戻す (:) ・ 休憩 (~ 時 分) ・ 早退 (時 分 保護者来校 有・無)			
・ 退室時の痛みレベル (1 2 3 4 5 重)			

・主に「頭が痛い」という訴えて
来室した生徒へ使用

工夫した点

- ・痛みのレベルの数値化
- ・具体的な言葉を使用
- ・観察項目、問診項目、
処置、体質時の痛みレベル
等、対応記載欄を追加

【問診票「頭痛の記録」】

(2) 問診票「頭痛の記録」の活用

(1) DVD研修会

「総合診療医 北垣毅の養護教諭フィジカルアセスメントシリーズ『内科編Ⅰ頭痛 危ない症状はこれ！～問診対応の実践と頭痛に関する講義～』」を視聴した。

○主な内容

- 1 頭痛を訴える生徒への対応
- 2 絶対見逃してはいけない怖い頭痛
- 3 頭以外の原因で起こる頭痛
- 4 子どもの片頭痛の特徴とその治療
- 5 保健室での頭痛の対応方法

○DVD 視聴の感想

- ・頭痛の訴えがあった際に、養護教諭としてまずおさえないといけないのは、命の危険を伴う頭痛であるか否かの判断である。今回のDVD視聴で、ポイントを押さえることができた。問診で行うテストの方法を画面で確認できたこともよかった。
- ・今まであまり頭痛について知識を持っていなかったが、頭痛のいろいろな種類を知ることができ、役に立った。
- ・特に保健室で対応する頭痛は、いろいろな種類があること、そして混ざり合って分類できない頭痛もあることを知った。
- ・片頭痛についても、特徴、暗いところで休ませるなど対応方法についても学んだ。
- ・頭痛を訴え来室する生徒に、問診票を使って問診している際も今回得た知識を活かし、対応できるようになってきた。

(2) 横浜市学校保健会港南支部 養護教諭部会 小・中・特別支援学校合同研修会

講演会 「小児・思春期の頭痛とその対策」

講 師 富士通クリニック内科(頭痛外来) 五十嵐 久佳先生

日 時 2019年8月29日

場 所 港南区医師会館 会議室

対 象 港南区小・中特別支援学校 養護教諭

○主な講演内容

- ・小中学生の頭痛の現状の紹介
- ・頭痛の種類
- ・片頭痛の誘発因子
- ・「頭痛ダイアリー」「頭痛体操」の紹介
- ・受診と内服薬のタイミング
- ・頭痛への理解と対応



【講演中に行われた頭痛体操の実習の様子】

○講演の感想

- ・繰り返す頭痛ではストレスや起立性調節障害、脳脊髄液減少症などの疾患についても考えなければいけないことや、内服のアドバイスや受診を勧めるタイミングなど参考になった。
- ・あらためて睡眠の質が頭痛の発症に影響を与えることを確認した。
- ・小児では持続時間が短いとされているが、発症した生徒は保健室で1授業時間休養させても痛みが持続するケースが多く、休ませ続けることで痛みの緩和は期待できるかもしれないが、その後に活動させることで再び痛んだり、無理に活動させてしまうことなどの不安が残ると思った。
ただ一番症状の強い時間に帰宅させることのないようにしなければならなかったと思った。
- ・頭痛について、記録をすることの大切さがわかった。
- ・繰り返す頭痛の訴えをないがしろにせず、ていねいに問診を行い、親身に対応することが大切だと感じた。

4 保健教育の取組

保健室では、生徒自身が頭痛を理解し、正しい対応がとれるような支援を行っていきたいと考えた。そこで、港南区養護教諭部会で作成した「頭痛の記録」、「頭痛ダイアリー」、保健だよりや掲示物を活用し、保健室での対応に生かしていく取組を行った。保健室に来室する生徒への個別指導と、学校保健委員会を通して頭痛について学ぶ集団指導について、各校の事例を紹介していく。

(1) 個別指導

事例1「頭痛ダイアリー（養護教諭作成）をつけて生活習慣の改善をはかる」

生徒	小学校高学年から片頭痛を抱え、保健室登校を繰り返す中学2年生(女子)
状況	体調管理がうまくできず、保健室登校を繰り返していた。 内服などもうまく活用することができず、症状を悪化させることが多い。
指導内容 指導結果	・記録を重ねることで、頭痛が起こりやすい時間帯や、前兆などについて生徒と話し合うことができた。 ・生活習慣の改善や、内服薬のタイミング等の指導に活用できた。 ・保護者とも話し合うことができ、理解を得て受診にもつなげることができた。 ・予防的服薬や発症の強さによって内服内容をコントロールして希望の進路に進むことができた。

事例2「頭痛のタイプを示したカードで見取りながら原因・対処法を考える」

生徒	生活リズムとストレスが原因と思われる中学3年生(女子)
状況	吐き気を訴え来室。生活リズムの疲れと受験のストレスが原因と考えられる。 テスト前やストレスがたまると、吐き気や頭痛が起こり体調管理がうまくできない。
指導内容 指導結果	・「自分は緊張型頭痛だと思う」など頭痛のタイプについて知ることから始めることができた。 ・タイプによって手当の方法がちがうことを知り、首元を温めたり、頭痛体操をして気分を落ち着けるなど、リラックスすることができた。 ・テスト期間には、予防のために自ら頭痛体操を行うなど対処することができるようになった。

あなたの頭痛はどのタイプ？

痛みのレベル	片頭痛	緊張型頭痛
どこが痛む？	中等度から重度 片側や両側、前頭	軽度から中等度 両側
どんな痛み？	ズキンズキン	ギューッと締めつけられるような痛みや圧迫されるような痛み
他の症状	吐き気、嘔吐 動くと痛みが増す	なし
体を動かすと痛みが増す？	ある	なし
頭痛の前兆	●目の前にキラキラが見えたり、目がチカチカ、クラクラなどする。音に過敏になる。 ●頭痛が起こる前に、生あくびや肩こりなどが起こることがある	なし
頭痛の原因？	外出や日光・ストレスなど	ストレスや長時間同じ姿勢など
手当の方法	・内服薬 ・暗いところで静かに寝る	・首元を温める ・ストレッチ



【頭痛のタイプを示したカード】

【頭痛体操】五十嵐久佳先生より

いずれの事例も、作成した資料を活用し、記録を蓄積することで、頭痛が起こりやすい時間帯や前兆について傾向をつかむことに役立ち、生活習慣の改善や内服薬を服用するタイミング等を指導することができた。また、繰り返す頭痛で不安を抱えている生徒に対して、「頭痛ダイアリー」や「頭痛の記録」を養護教諭とともに丁寧に確認しながら、記入を行うことで「心配してもらえている、わかってもらえている」という生徒の安心感を高め、不安を解消することにつながった。指導や支援をしても、すぐに改善がみられないケースもまだまだ多くあるが、養護教諭自身も、根拠となるデータとして資料を活用することができて、「頭痛の記録」を介しての会話も増え、指導の自信につなげることができた。

(2) 集団指導

① 学校保健委員のテーマとして設定し開催

「身体のシグナルに気付く～頭痛の原因と対処方法～」を学校保健委員会のテーマに設定し、研究協議を行った。

日時 2019年12月18日

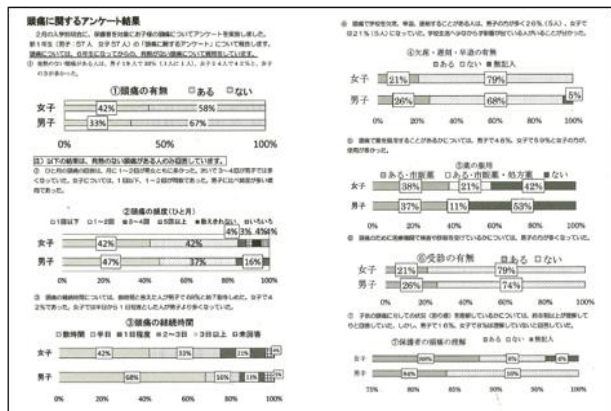
場所 ○○中学校 図書室

参加者 学校医・校長・副校長・保健美化委員・委員会担当職員・保護者代表

② その他の集団指導

保健だよりの発行や掲示物の作成を行い、集団への保健教育を行った。信頼できる発信元からの情報を使用するように努め、誘発因子については断定的な表現を避けながら、予防や対処方法について、中学生にわかりやすい表記や取り組みやすい内容にした。頭痛は身近な症状だけに、保健だよりに「頭痛ダイアリー」を掲載すると、保護者や生徒から反応があった。また、「頭痛体操」などの掲示物は保健室での個別指導でも活用できた。

入学説明会に参加した保護者を対象にアンケートを実施し、結果を保健教育に生かした学校もあった。生徒が回答した頭痛についての結果と大きな差異がないことが分かった。



【入学説明会資料】



保健室業務の効率化を目指して

～保健室データ管理のシステム化～

横浜市高等学校養護教諭研究会

1 設定理由

近年では、ますます養護教諭の職務は多忙化している。限られた時間と人数で多様な仕事を行っているのが現状である。そんな中、日々保健室に来室する生徒の状況を的確に把握し、対応、管理することが求められている。

横浜市高等学校養護教諭研究会では、多様化する養護教諭の職務の効率化を図る目的で、「保健室来室記録」「保健日誌」「保健室利用状況」をリンクさせた、保健室データ管理システムを構築するためこのテーマを設定した。

2 研究内容

- (1) 各校で使用している「保健室来室記録」「保健日誌」の項目調査
- (2) 各校共通で利用できる、データ管理システムの構築

3 研究の経過と方法

研究は、2022年からスタートした。横浜市立高等学校には現在、義務教育学校で活用されている校務システムは導入されていない。そのため日々の生徒の保健室来室状況の整理や、保健日誌の記入等は、各校の実態に即した独自の形式で行っている。

「保健室来室記録」「保健日誌」「保健室利用状況」がそれぞれ独立しているため、記録の整理や記入に手間と時間を要することが難点であった。

そこで義務教育学校の公務システムと同様に、それらをリンクさせた保健室データ管理システムの作成を検討することとなった。

研究の経過は以下のとおりである。

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 令和4年7月 | 義務教育学校の「校務システム」の研修 |
| 令和4年7月～ | 各校で使用している「保健室来室記録」「保健日誌」の項目調査 |
| | ・共通項目の確認 |
| | ・必要項目の検討 |
| 令和4年9・10月 | データ管理システムの検討 |
| | ・「保健室来室記録」入力シート(入力項目)の検討 |
| | ・「保健室来室記録」入力方法の検討 |
| | 1) 生徒が保健室来室時、まず「保健室来室記録(紙)」に記入させる |
| | 2) 1)を養護教諭がデータ入力する |

- 令和4年9月 「保健室来室記録」入力シート(Excel)の試作
・ICT インストラクター派遣研修(1回目)
- 令和4年11月 「保健室来室記録」【資料1】と「保健日誌」【資料3】のリンクシステム試作品完成
・ICT インストラクター派遣研修(2回目)
・「保健室来室記録」と「保健日誌」のリンクシステムの試作
- 令和4年12月 「保健室来室記録」と「保健日誌」のリンクシステム試作品改善点の検討

【資料1】

保健室来室記録_1124.xlsx

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 実行したい作業を入力してください...

切り取り 貼り付け 書式のコピー/貼り付け クリップボード

游ゴシック 12 A⁺ A⁻ B I U 背景色 フォント 配置 数値

B2

保健室来室記録

来室日	年	月	日	曜日	本日の日付
時間	時	分	~	時	分
学年・組・番号	年	組	番	氏名	
性別					
科目名					
発生時間	(時 分)				
発生場所					
課活動					
主訴・症状	第1		第2		第3
熱		℃			
食事	朝		昼		夜
排便	あり	(分)	なし		日なし
睡眠時間	時	分	~	時	分
悪阻					
連絡					
相談		内容		SC	
備考					

転記 クリア

入力画面_修正 来室データ 集計レポート 保健室日誌 入力リスト 名簿 行事 統計 日誌用データ (+)

【資料2】・・・【資料1】で入力した来室者のデータ一覧

保健室来室記録_1124.xlsx - Excel

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 実行したい作業を入力してください...

切り取り 貼り付け 書式のコピー/貼り付け クリップボード

フォント 配置 数値 スタイル

標準 標準2 標準_Sheet1

オートSUM 挿入 削除 書式 クリア

並べ替えと検索 フィルター 選択

E22

入力画面_修正 来室データ 集計ピボット 保健室日誌 入カリスト 名簿 行事 統計 日誌用データ

【資料3】

保健室来室記録_

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 実行したい作業を入力してください...

切り取り 貼り付け 書式のコピー/貼り付け クリップボード

フォント 配置 数値

標準

折り返して全体を表示する

セルを結合して中央揃え

%

B3

=IF(VLOOKUP(A2,行事!\$A:\$B,2,FALSE)="", "", VLOOKUP(A2,行事!\$A:\$B,2,FA

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S

1

2 2022年10月19日 (水) 天候 校長 養護 教諭

3 行 #N/A

4 事

5 学 年 1 2 3 4 計 備 考

6 擦過傷 1 1 0 0 2

7 切り傷 1 0 0 0 1

8 打撲 0 0 0 0 0

9 捻挫 2 0 0 0 2

10 他 0 0 0 0 0

11 頭 痛 1 0 0 0 1

12 腹 痛 0 2 0 0 2

13 発 熱 0 2 0 0 2

14 気分不良 1 1 2 0 4

15 他 0 1 2 0 3

16 合 計 6 7 4 0 17

17 相 談 1 1 0 0 0

18 処置 年 組 性別 氏名 主訴

19 休養 1 1 男 冬空青空 頭痛

20 戸塚太郎 発熱

21 戸塚次郎 擦過傷

22 夏美厚夫 発熱

23 早退 1 2 女 椿三郷 捻挫

24 応急処置 3 2 男 薄野香 胃痛

25 3 男 秋野徹 胃痛

26 病院受診 1 2 女 春野花子 捻挫

27

28

29

30

入力画面_修正 来室データ 集計ピボット 保健室日誌 入カリスト 名簿 行事 統計 日誌用データ

4 今後の流れ

現在は、試作品として作成した「保健室来室記録」と「保健日誌」のリンクシステムに関し、問題点のあぶり出しと修正を行っている。

今後は更に「保健室来室記録（紙）」を作成するとともに、「保健室利用状況」をリンクさせ、同時に統計も取れるよう検討する。そして横浜市立高等学校全校実施に向けた、保健室データ管理システムの構築を目指して研究を進めていきたいと考えている。

「特別な支援を必要とする子どもたちの歯・口の健康づくり」

～歯科保健教育のスキルアップを目指して～

横浜市特別支援学校教育研究会養護教諭専門部会

Ⅰ テーマ設定の理由

特別支援学校の校種は知的・肢体不自由・盲・ろう・病弱と分かれている。近年、子どもの障害は重度・重複化、多様化し、各校の実態や健康課題も大きく異なるが、歯科保健教育は共通して取り組んでいる課題である。また、特別な支援を要する子どもにとって、歯・口の健康づくりは、心身の発育・発達を促し、生活の自立や社会生活への参加、QOLを向上させるための重要な要素となっている。その他、歯科疾患の予防に取り組むことが、感染症や全身性の疾患の未然防止にもつながるなど、歯科疾患の発症を防ぐ一次予防がより重要な要素となると考え、本テーマを設定した。

2 研究経過

初年度である2019年度は、障害のある方の口腔衛生について歯科衛生士より講義を受け、研究を深めるとともに、各校の歯科保健活動における主な取組と課題について情報を共有した。感覚の特異性や歯の形成異常など障害・疾患特性による困難さや医療機関へのつながりにくさ、周囲のサポート力の課題などが共通課題として明らかになった。生涯にわたる健康な歯・口腔の保持増進のために、セルフケアと医療機関での専門的なケアを合わせた口腔ケア、周囲のサポート力の向上などが必要であることを確認した。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、少人数でも研究がすすめられるようグループ別に分かれて活動を行った。Aグループは、横浜市内特別支援学校の歯科校医のリストと横浜市内にある障がい児・者対応の歯科医療機関リストを作成した。Bグループは、視覚的・触覚的にわかりやすい歯科指導教材づくりを目指し、DVDや歯科模型を作成した。Cグループは、他機関や他職種と連携をとり歯科保健教育に取り組んでいる事例を紹介した。Dグループは、各校が必要に応じて活用できるよう教職員・保護者向け資料を作成した。そして、各グループの研究内容を全体で共有し、各校で実践することとした。

2021年度は、各校で2020年度の研究成果を生かした実践に取り組み、その内容を共有した。

3 研究内容

グループ別の研究内容と各校で活用した成果と課題について報告する。

Aグループ；障がい者歯科を専門とする歯科医療機関リストの作成

特別支援学校13校の歯科校医のリストや、日本障がい歯科医療学会認定医のリストを作成した。医療機関の受付時間や地図、麻酔の有無や受診までの流れなどの詳細情報を載せることで安心して受診できるよう工夫した。また、受診をスムーズにすすめるため、医療関係者向けの資料や子ども向けの資料を作成した。

各校の活用方法としては、ほけんだよりや面談等で医療機関リストを紹介するほか、個別に相談を受けた際等に紹介した。

歯科医療機関の方々へ

名前

(呼び名:)

障害特性により苦手なことがいくつかあります。チェックリストにマークがついている内容についてできる範囲でかまいませんので、ご理解ご配慮いただくと大変助かります。どうぞよろしくお願ひ致します。



- ☐ 待つこと
待ち時間が長い場合は別の場所まで待たせてもらえるとう助かります。(車の中など)
- ☐ 初めての場所や人
慣れるまでお気に入りのぬいぐるみを抱えたり、保護者が近くに付き添わせてもらえるとう安心します
- ☐ 音(大きな音、子どもの泣き声、機械音など)
ヘッドホンや耳栓をさせてください
- ☐ 匂い(薬臭の匂いなど)
好きな匂い(香から持参のタオル等)を懐くと安心します
- ☐ 見通しの悪いこと
あらかじめ診療の流れがわかると安心できます(手帳表をもとに本人と確認しながら診療をすすめてもらえるとう助かります) 終わりがわかると安心できます(例「10数えるまで口を開けて」)
- ☐ 耳から聞くこと
ゆっくり、単語で話してもらえるとわかりやすいです(例:「口、開けて」 「椅子、倒れます」)
- ☐ 集中すること
周りの人やものが気になります。本人から少し離してもらえると助かります
長い時間、集中することが難しいので、短い時間で設定してもらえると助かります

- ☐ 触られること(特に口の中、鼻、耳、目などの顔周り)
指や歯ブラシで頬や歯茎を少しずつ触れることで慣れていくことができます
- ☐ 急な動作
椅子が倒れるときや起き上がる時など動作が伴う時に一声かけてもらえるとう助かります
- ☐ 明るい光(ライトの光)
サングラス等で光の調整をさせてもらえるとう助かります
- ☐ 尖ったものや金属
ぬいぐるみなどで治療している姿を見せると怖さが和らぐかもしれません
抱っこ(好きな動画を見るなど)に集中していると怖さが和らぐかもしれません
- ☐ うがい
うがいが上手にできません。口に含むと飲んでしまうことがあります

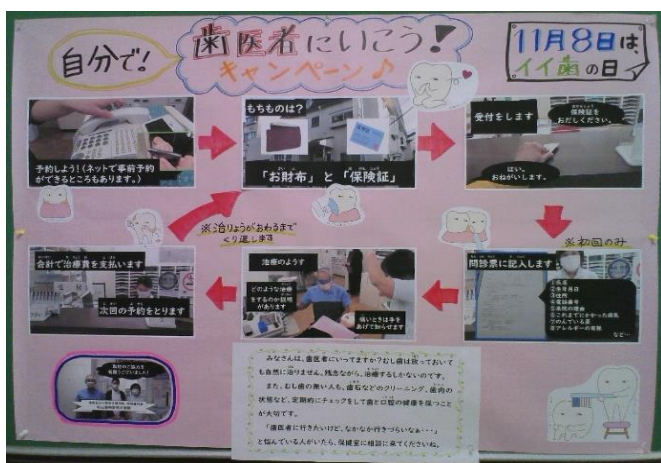


褒められるとう嬉しくなれます☆
無理のない範囲で、少しずつ成功体験を積み重ねていけたら嬉しいです。
よろしくお願ひします m(_ _)m

【成果と課題】

「医療機関ごとの特色や住所などから、実情にあった医療機関の情報を提供することができた」「主治医を作った方が

DVD 動画や歯科模型を掲示物として活用した様子



【 成果と課題 】

「模型があることで視覚的に印象付けることができた」「生え始めの歯は磨きにくいことに気づき、工夫して磨くようになった」「卒後の歯科受診への意識づけをすることができた」などの成果がある一方で、「さまざまな視聴場面に対応することができなかった」「模型が自立しないため工夫が必要だった」などの課題もあがった。

C グループ; 歯科保健にかかわる他機関との連携

歯みがきの目的は、むし歯予防や感染症予防などに限らず、自立に向けた生活習慣の確立、口腔過敏の克服、歯みがきを通したコミュニケーションなど多岐に渡っている。そして、その目的を果たすためには、保護者、教職員のみならず他職種にわたる人や機関との連携が必要となる。各学校が、歯科医・歯科衛生士のほか、栄養士や学校医、臨床指導医、ST（言語聴覚士）などさまざまな機関連携をとり、歯科保健に取り組んでいる事例について共有した。

【 歯科医との連携 】 歯科受診のハードルが高い障害のある子どもたちのために、歯科医と連携し、保健室にて模擬歯科受診の場面をつくり、学校以外の場所でも診察が受けられるように工夫している。(写真左下)

【 臨床指導医との連携 】 口腔機能に課題のある子どもたちの給食指導について助言をしてもらっている。(写真右下)



【 歯科衛生士との連携 】

歯科巡回指導の際、作成した歯科模型を活用し歯科指導を行っている。



【 成果と課題 】

「各学校の色々な職種との連携事例を共有することができた」「知的障害児・者、重度心身障害児・者の摂食、嚥下について理解し、日常の指導に役立てることができた」「教職員の参考資料になった」などの成果がある一方で、「指導対象が絞られてしまうため、幅広い活用がしにくかった」などの課題もあがった。

D グループ；保護者・教職員向け資料の作成

障害のある子どもたちにとって、歯科疾患を予防するためには、保護者や教職員のサポートが必要となるケースも多い。各校の実態に合わせ、すぐに活用できる資料を保護者向け、教職員向けに作成した。ほけんだよりや掲示物、HP などに掲載し、広く情報発信を行った。

保護者向けには、家庭での仕上げ磨きの方法、かかりつけの歯科医をみつけておくことの重要性や歯科受診における様々な治療法などについての資料を作成した。教職員向けには、基本的な口腔ケアの情報や歯式について、介助をする際に、歯みがきを嫌がる子どもへの対応方法や仕上げ磨きの際の歯ブラシの動かし方などについての資料を作成した。また、その他にも、参考となる文献やホームページの情報を載せることで、多岐にわたる情報となるよう工夫した。

【 成果と課題 】

「歯科検診直後などタイムリーに情報を発信できた」「障害のある子に沿った様々な歯科治療の方法を紹介することができた」「教員や保護者からの質問に対し、資料を参考にしながら伝えることができた」「資料内容を応用し、生徒向け指導の教材として活用することができた」などの成果がある一方で、「文字が多かったので、もう少し視覚に訴えるレイアウトを工夫できたらよかった」などの課題もあがった。

4 まとめ

今回私たちは、セルフケア、プロケア、サポートケアの3つの要素に重点をおき研究を進めてきた。

毎日のていねいな歯磨き、正しい食習慣などをセルフケア、専門医による定期的な検診や治療、栄養士による食指導、口腔機能の維持・回復のための言語聴覚士による指導などをプロケア、そして、セルフケアを行うことが難しい場合に周囲の人が代わりに行う口腔ケアをサポートケアとした。

セルフケアにプロケアとサポートケアを組み合わせることが、生涯にわたる健康な歯・口腔の保持増進とともに、QOLの維持・向上につながっていくと考えた。歯科疾患を発症しやすく重症化しやすいという障害特性からしても、できるだけ早期に専門機関につながりプロケアを受けることや、周囲の人からの丁寧なサポートケアを受けることが特に大切となってくる。

セルフケアには、「口腔ケアの大切さを知り、自ら考え実践できる力」、プロケアには、「専門的ケアの大切さを知り、医療につながる力」、サポートケアには、「介助者が、口腔ケアの大切さを知り、毎日の丁寧なケアを行うこと」や「本人を定期的に医療につなげるサポート力」が必要となる。そして、さらには、サポートを受け入れる子どもたちの力も必要となってくる。今回の研究では、それらの力を高めるため、自ら考え実践する力を育てるものや、保護者や教員がサポートケアを行う際に参考となるもの、専門機関につながる一助となるものなどを作成し、各校で必要に応じて実践してきた。

障害の特性によって子ども達の実態も様々だが、各校で実践し、その実践例を共有することで、互いの学びにつながり、私たちの歯科保健教育の幅を広げることができたのではないかと感じている。さまざまな障がいのある子ども達の生涯にわたる健康な歯・口腔の保持増進のため、また、QOLを維持しながら豊かな社会生活を営むために、今後もより充実した歯科保健教育を目指していきたい。



第73 回関東甲信越静学校保健大会開催要項

1 目 的

幼児・児童・生徒の心と体の健全な発育・発達を目指し、健康教育の当面する課題について研究協議し、その具体的な方策を究明するとともに、健康教育の充実と発展に資する。

2 主 題 新しい生活様式を経験して考える不易流行の健康教育

3 主 催 神奈川県教育委員会、横浜市教育局委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育局委員会、横須賀市教育局委員会、神奈川県学校保健連合会、(公財)日本学校保健会

4 後 援

文部科学省、関係都県教育委員会、関係都県学校保健会、横浜市学校保健会、川崎市学校保健会、相模原市学校保健会、(公社)神奈川県医師会、(公社)神奈川県歯科医師会、(公社)神奈川県薬剤師会、ほか

5 期 日 令和4年8月4日(木)

6 開催方法

オンライン(Zoom によるライブ配信)開催とする。

- ・第73 回関東甲信越静学校保健大会ホームページ(以下、「大会ホームページ」とする。)を開設(参加者限定で公開)し、大会参加に関するマニュアル、大会要項及び班別研究協議資料等を掲載する。
 - ・参加者には、個別に ID とパスワードを送付し、それを用いて大会ホームページより大会に参加する。
 - ・大会の録画記録を大会ホームページより視聴できるものとする。
- (※大会ホームページ開設期間 令和4年7月 21 日(木)から8月 31 日(水))

7 参加人数

800 人(参加者は、各職場等からのオンライン参加とする。)

8 参加対象

- (1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の関係教職員
- (2) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師
- (3) 教育委員会、学校保健会の関係職員
- (4) その他の健康教育関係者

9 日程及び編成

(1) 開会式

- ①時間 13 時 00 分から 13 時 15 分まで
- ②概要 開会挨拶、来賓挨拶、次回開催権挨拶（次回開催：埼玉県（集合開催））

(2) 特別講演

- ①時間 13 時 15 分から 14 時 15 分
- ②演題 「心と体を育む食育」～今、そして 10 年先の健康のために～
- ③講師 株式会社 ABC Cooking Studio 管理栄養士 塚本 万智

(3) 班別研究協議会

- ①時間 14 時 30 分から 16 時 35 分まで
- ②研究協議題 別紙「班別研究協議題一覧」のとおり

(4) その他の関係会議

※班別研究協議会運営会議

- ①時間 11 時から 12 時まで
- ②会場 オンライン会議
- ③概要 10 都県の班別研究協議会提案者、助言者、司会者による進行等の事前打合せ

その他、職域部会として、別日程で次の会議が開催される。

- ①学校医協議会（公益社団法人神奈川県医師会主催）
日時 令和4年8月4日（木） 13 時 30 分から 17 時 20 分まで
会場 WEB 開催（LIVE 配信＋オンデマンド配信）
- ②歯科職域部会（公益社団法人神奈川県歯科医師会主催）
日時 令和4年8月4日（木） 17 時 30 分から 19 時 00 分まで
会場 オンライン開催

10 大会準備及び大会運営

主催となる関係機関及び関係団体で「第 73 回関東甲信越静学校保健大会神奈川実行委員会」を組織してこれにあたる。

11 大会費用

主催者の負担金、後援団体の補助金及び参加者の参加費（2,000 円）をもってこれに充てる。

令和4年度全国学校保健・安全研究大会開催要項

1 趣 旨

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子供の心身の健康にも大きな影響を与えている。学校生活においては、メンタルヘルスにかかわる課題、アレルギー疾患、性に関する課題、依存症、感染症など、現代的な健康課題は多様化かつ深刻化してきている。また、登下校中の交通事故や不審者への対応など、学校管理下における子供の安全と安心確保がますます重要な課題となっている。さらには、東日本大震災をはじめ各地で発生する自然災害等を鑑みた安全教育の充実、熱中症への対応など、新しい課題も発生してきている。

これらの課題解決を図るためには、学校全体として学校保健・学校安全に取り組む校内の組織体制を整備するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を推進していく必要がある。

本大会は多年にわたる研究成果を踏まえ、生涯を通じて心豊かにたくましく生きる子供の育成をめざして、学校保健、学校安全に関連する諸課題について研究協議を行い、健康教育の充実発展に資するものである。

2 主 題

生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
～多様化する健康課題の解決に向けて主体的に取り組む子供の育成～

3 主 催

文部科学省、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、(公財)日本学校保健会、岩手県学校保健会

4 期 日

令和4年11月10日(木)～11日(金)

5 開催方法及び会場

開催方法 ハイブリッド開催

会 場 盛岡市民文化ホール(岩手県盛岡市盛岡駅西通2-9-1)

いわて県民情報交流センター(岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1)

6 内 容

(1) 全体会

・開会式

・表彰式 学校保健・学校安全の功労者に対する文部科学大臣表彰を行う。

・記念公演 講師：兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 特任教授 富永 良喜 氏

(2) 課題別研究協議会

10課題について、課題別に研究発表、研究協議、指導助言及び講義を行う。

(3) 全国学校保健会中央大会

令和4年度全国養護教諭連絡協議会 第28回研究協議会

1 趣旨

近年の社会環境や生活様式の急激な変化は、子供たちの心身の健康に大きな影響を与え、いじめや不登校、生活習慣の乱れ、アレルギー疾患、災害や事故発生時における心のケア、感染症などの様々な現代的健康課題を生じさせています。

このような状況の中、私たち養護教諭は、子供たちの豊かな心と健やかな体を育むため、養護教諭の専門性を生かした保健教育の充実を図り、学校保健活動の中心的な役割を果たすことはもちろん、校内外の連携・協働を推進することが求められています。

令和3年3月に日本学校保健会から「学校保健の課題とその対応-養護教諭の職務等に関する調査結果から-令和2年度改訂」が出されました。そこには、今の学校保健の現状と課題が明らかにされており、これからの学校保健に求められている、養護教諭の役割についての考察も述べられています。

そこで本研究協議会では、連携・協働をいっそう深めた新しい時代の保健室経営のあり方を、昨年に引き続き追究することを通して、学校保健活動のさらなる充実を図るとともに、専門職としての養護教諭の資質向上を目指します。

2 主題

「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する」～新しい時代の保健室経営のあり方とは～

3 実施方法

ハイブリッド開催 参集参加と動画配信参加

4 動画配信期間

令和5年3月7日(火)～令和5年4月9日(日)

5 主催

全国養護教諭連絡協議会

6 共催

公益財団法人 日本学校保健会

7 後援

文部科学省 (公社)日本医師会 (公社)日本学校歯科医会 (公社) 日本薬剤師会
全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国特別支援学校長会
全国学校保健主事会 東京都教育委員会 (一財)東京都学校保健会 日本教育シューズ協議会

8 内容

(1) 特別講演「スマホ時代に養護教諭が知っておきたい事」

兵庫県立大学准教授 竹 内 和 雄

(2) 基調講演「養護教諭のさらなる資質向上を目指して」

文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 松 崎 美 枝

(3) フォーラム「連携・協働を深化させた新しい時代の保健室経営のあり方を通して」

コーディネーター びわこ学院大学 教授 岩 崎 信 子

シンポジスト

小学校 横浜市立上菅田笹の丘小学校 副 校 長 徳 永 久 美 子

中学校 岡山県津山市立津山東中学校 養護教諭 石 原 亜 純

高等学校 群馬県立下仁田高等学校 養護教諭 中 嶋 由 佳 里

特別支援学校 埼玉県立越谷西特別支援学校 養護教諭 渡 邊 登 志 子

9 参加者

(1) 幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校等の養護教諭

(2) 教育委員会・教育事務所の学校保健関係職員

(3) 学生

(4) その他の学校関係者

編集後記

『保健集録第72集』をお届けいたします。

横浜市養護教諭研究会は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校研究会で組織されています。各学校間の連携はもとより、小・中学校間でも交流がすすんでいます。研究大会でも異校種の先生方がたくさん参加され、活発な意見交換が行われています。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な工夫や感染症対策を講じながら研究活動や発表が行われてきました。

この保健集録で、各研究会の研究内容を共有し今後の研究にお役立ていただくとともに、更なる成果へと結び付けていただけたらと思います。

作成にあたり、貴重な研究資料をご提供いただいた先生方に感謝申し上げます。

令和5年3月

横浜市養護教諭研究会 集録編集委員
情報委員会

保健集録 第72集

発行日 2023(令和5)年3月31日

発行 横浜市養護教諭研究会

横浜市小学校教育研究会養護研究会

横浜市立中学校教育研究会養護教諭部会

横浜市高等学校教育研究会養護教諭研究会

横浜市特別支援学校教育研究会養護教諭専門部会